

企画事業「新たな政策課題に対応した事業」  
「教員免許状更新講習」

平成21年11月7日（土）～11月8日（日）（1泊2日）  
平成21年11月14日（土）（日帰り）



## I 事業の背景

多様化する児童生徒の現状に対応し、国民の信頼にこたえることのできる優れた資質能力を有する教員の養成・確保を図るため、教員免許状に10年間の有効期限を設け、定期的に最新の知識技能を身につけるための講習を受講、修了する「教員免許状講習」が導入された。そこで、体験活動に関する資質能力を習得することを目的として講習会を実施する。

## II 事業の概要

### 1 趣 旨

今日の子どもの現状として、「体力の低下」「基本的生活習慣の乱れ」「意欲の低下」や「社会性の欠如」などが指摘され、いじめや不登校等の深刻な状況が問題になってきている。こうした問題の原因として、家庭や地域の関与の少なさとともに、自然とのふれあいや仲間との交流の少なさとといった直接体験の不足が挙げられる。

そこで、体験活動の意義や必要性を説き、様々な体験を通して教員の資質能力の向上をねらいとする講習会を開設する。

### 2 参加対象

平成21年4月1日から平成23年1月31日までに更新講習を受講しなければならない者

30名

### 3 参加状況

	合 計	30歳代	40歳代	50歳代	小学校	中学校	高等学校
男 性	10名	3名	6名	1名	0名	1名	9名
女 性	1名	1名	0名	0名	0名	1名	0名

### 4 企画のポイント

新しい学習指導要領に示されている「体験活動」をテーマにするという機構本部の開設の指針を受け、「旧青年の家」の役割を果たすため、研修の成果をできる限り青年（高校生）に還元することとし、対象を高等学校教諭（小中学校教諭の参加可）として企画した。

野外炊事の実習を通し、技術の習得とともに、仲間づくりをねらいとする手法として活用できることをテーマをおいた。また、企業担当者を交えて就労体験の企画の留意事項や、企画から評価までの「PDCAサイクル」という基本を学び、生徒指導に役立てられるよう方向づけた。

## 5 実施状況・参加者の様子

○11月7日

講義：教育の現状と課題

演習：体験活動の意義と実際

演習：効果的な体験活動とするために



【グループワークでお互いの意見を交換】

○11月8日

実習：野外活動の実際（野外炊事）

演習：職場体験活動・就労体験活動の留意点



【演劇ワーク（生徒面談の場面）】

○11月14日

演習：体験活動の企画・展開・評価

実習：野外活動の実際（奉仕活動）

### 《参加者の声》

- ・行事が精選されていく中、体験活動をどのように扱っていくかを考える貴重な機会になった。
- ・体験活動に特化していたので的を絞って学べた。
- ・理論と体験活動演習のバランスがよく、取り組みやすかった。
- ・体験の必要性を理解できた。
- ・コーチングの手法はさらに学んでみたい。

## Ⅲ 成果と課題

### 1 成果

参加者の履修状況及び履修認定試験の結果は良好であった。参加者全員が静岡県内に勤務する教員で、県教育委員会担当者の情報では受講生全員の更新手続きを終えたとのことである。

児童生徒の直接体験の機会が少ないことが指摘されている今日、参加者が研修を通じて体験の必要性を認識したことは今後の学校教育に生かされることと信じている。

### 2 今後の課題

教員免許状更新のためでなく、教師が自らのスキルアップのために体験活動指導者としての研鑽を積めるような学びの場を充実させていく必要性を考えさせられた。

担当：企画指導専門職 鈴木 眞成